



## いつまでもお元気で！

川久保 キサさん 100歳のお誕生日

川久保キサさん（志佐・上町）が1月4日、100歳の誕生日を迎えました。

川久保さんは、大正8年伊万里市で3人姉弟の長女として生まれ、若い頃は近所のミルク工場や当時の女性のおこがれの職業「バスガール」として勤務。22歳で結婚し、二男二女に恵まれました。松浦市へ移り住んでは、日用品等をお店を45歳まで一人で営まれました。お話し好きなお茶目な性格で、現在は愛光園のショートステイを時折利用しながら、ご自宅で元気に過ごされています。この日、100歳の誕生日を迎え、家族らから温かい祝福を受けていました。



## 子どもたちが受け継ぐ伝統行事

星鹿地区もぐら打ち

星鹿地区で家内安全や無病息災などを祈願する新春の伝統行事「もぐら打ち」が1月6日に行われました。

この日は、小中学生12人が集まり、地区内の約100戸を2班に分かれて回りました。語り継がれているもぐら打ちの掛け声（唄）は地域ごとで微妙に異なるようですが、子どもたちは、「祝いましょう、祝いましょう、祝のもちをくれたなら、末も繁盛で世も良かる…」と大きな掛け声を掛けながら、新わらで作った約80号のもぐら打ち棒で、玄関の床を力強く叩きました。

子どもたちは、地域の人から叩き方のコツや唄のリズムを教えてもらいながら交流を深めていました。



## 市内小学生が北海道鷹栖町を訪問

ホークス交流事業

1月4日から8日までの5日間、市内小学校の児童6人が鷹栖町を訪問しました。

この事業は、気候、風土、生活習慣などが異なる地域での生活体験や交流を通して、郷土愛や広い視野をもつ青少年を育成することを目的に実施されています。

今回は、永野楓真さん（上志佐小5年）、金子皿さん（福島養源小6年）、金子航輔さん（福島養源小5年）、熊本侑亜さん（鷹島小6年）、大石瑞葉さん（鷹島小6年）、丸山朝陽さん（鷹島小6年）が参加しました。

鷹栖町では、ホームステイや雪中交流会、スキー体験などを通して鷹栖町の皆さんと交流を深めました。



## 威勢のいい掛け声が響く

松浦魚市場初競り

日本有数のアジ・サバの水揚量を誇る松浦魚市場で1月6日、今年最初の取り引きとなる初競りが行われました。

この日は、約387トが入荷。午前5時の1番競りから競り人と仲買人らの威勢のよい掛け声が市場内に響きわたり、水揚げされた新鮮なアジやサバなどが次々と競り落とされました。

その後開催された仕事始め式では、市場関係者が操業の安全と大漁、商売繁盛を願いました。





## 『鬼火』を囲み無病息災を祈願

鬼火たき

毎年恒例の鬼火たきが市内各地で行われました。  
鬼火たきは、しめ縄や門松に火を放ち、1年間の無病息災や家内安全などを祈願するものです。  
久保川志丸さん（調川・松山田）が昨年12月に完成させた高さ約6.5m、幅5mの四角すいの大きな鬼小屋は、年末年始には地域の憩いの場にもなりました。

1月7日、地域の家などから持ち寄せられたたくさんのしめ縄や門松を入れた鬼小屋に、久保川さんが火を放つと勢いよく燃え上がりました。集まった人たちは、大きな炎を見上げながら無病息災などを祈願しました。炎の勢いと音の迫力、その火で焼いた餅のおいしさに子どもたちからは感嘆の声が上がっていました。



## 伝統行事を後世に伝える

上志佐小学校もぐら打ち体験

お正月の伝統行事である「もぐら打ち」の体験が1月11日、上志佐小学校グラウンドで行われました。  
この体験学習は、大畑利治さん（志佐・横辺田）が子どもたちに昔ながらの伝統行事を体験してもらい、後世へ伝えてほしいとの思いから毎年開催されています。

この日は、同小学校の1年生10人、2年生5人、上志佐保育所の年中組8人と年長組8人の園児がもぐら打ちを体験。竹の先にわらを束ねた鉋状のものをくりつけたもぐら打ち棒を持ち、「14日のもぐら打ち、もちやらんもんはよくしあんぼう」と教わった囃し言葉を口ずさみながら地面を叩き、棒を打ち付ける音と子どもたちの元気な声が、グラウンドに響きました。



## 防火・防災への気持ちを新たに

消防出初式

松浦市消防出初式が1月7日、文化会館などで開催され、松浦市消防団（志水正信団長）をはじめとする消防関係者518人が一同に会し、今年1年の防火・防災への決意を新たにしました。

式典では、消防協力者や退団者への感謝状の贈呈、永年勤続者への表彰が行われました。志水団長は、「頻繁に発生するあらゆる災害に備え、常日頃からの危機管理意識・体制の向上・強化が求められる。団員諸君には、『自らの地域は自らで守る』という『自発的義勇の精神』のもと、その使命の大きさを再認識し、今後の消防・防災活動に取り組んでもらいたい」と訓辞しました。

式典後の市中分列行進では、団員たちが中央公園から庄野橋まで行進した後、一斉放水を行いました。



## 今年は2本命中！豊作の年に

百手講

百手講が1月8日、志佐町庄野地区の王嶋神社で行われました。

この行事は、的に当たった矢の数で今年の豊凶を占うもので、市の無形民俗文化財に指定されています。

今年の射手は、大庭浩史さんと佐々木数也さんが務めました。烏帽子と狩衣姿で約10m離れた場所から直径50cm程度の的にめがけてそれぞれ25本ずつ矢を放ち、見事2本命中させました。

地区の住民たちが見守る中、手製の弓矢に苦戦しながらも力強い射を見せる2人に、1射ごとに応援の声が上がり、命中すると大きな歓声と拍手が起きました。

